

日本一のシエアを誇る 自慢のシボ加工技術



株式会社棚澤八光社

シボ加工で 三次元パターンを再現

「シボ加工やバナトーン加工、車の開発に関わること等、当社の業務範囲は幅広い。いったい何をしている会社だろうと思われたいでしょうね」と棚澤肇社長。棚澤八光社はエッチング加工や電鍍加工、プリント配線板の製作をはじめ、それらに関わる一切の業務を担っている。特に、アートの高い繊細な質感をリアルに再現し、自動車の内装材や家電製品等に幅広く利用されているシボ加工においては、他社の追随を許さない。しかし「当社の何か一つの事業分野をとらえてもそれがすべてではないし、棚澤八光社という会社を理解したことにはならない」というのが棚澤社長の考えだ。

創業は明治38年。かつてはお守りの封入物や髪飾り等を製造、なかでも「透ける菜」はヒット商品となった。高度成長期には東京、名古屋に事業エリアを拡大、バブル崩壊後は市場を世界に求めた。「時代の変化に対応し生き残るためには、東京や世界に進出しなければならなかったのです」。身の丈に合わない無理をしてでも会社を伸ばすか、おとなしく沈んでいるかの賭けだったと。

現在では国内各地はもとより、



欧州、アメリカ、アジアの世界14か国に拠点を構え、工場や合弁会社、傍系会社を有する。自動車、建材、家電のプラスチック成形金型にシボ加工を施す技術で日本一のシエアを誇り、子会社と提携先が製造しているものを含めれば、世界でも60%超のシエアを占めている。

昭和20年以降、国内のプラスチック業界の急速な発展に伴い、製品加工においてもキズを防止し装飾効果が高いシボ加工がクローズアップされた。同社の創業者が使い始めた「シボ」という言葉は今や世界中で使われており、棚澤八光社抜きにしてシボ加工は語れないと言っても過言ではない。とりわけ同社のシボ加工は繊細で立体感があると評判で、しかもナチュラルな三次元パターンの再現に優れている。

シートを貼り込むだけの バナトーン加工

当初はシボ加工のみの単工程を請け負っていた同社だったが、取引先の工程に関するアドバイスや改善を手がけるうち、やがてデザイン部門に入りこみ、模様の開発にまで参入するようになった。シボの付いていない成形品にシボを付けるというバナトーン加工はその一つで、金属に直接模様を彫らなくてもシートを貼り込むことで、何種類もの異なる柄を手軽に確認できるのが特徴だ。自動車の場合、車体に合わせてシートを貼り完成品に仕立てれば、カタログ撮影やディーラー向けのプレゼンに活用できる。製作期間は自動車で2週間、

携帯電話なら3日もあれば充分だという。

棚澤社長には「企業人は商道德を守らなければいけない」という強い信念がある。「今の時代の価値観は銭金、技術、物と目に見えるものだけです。経営理念、思想、モラルがあり、商道德を守る経営者や企業でない、製品や技術がいくら良くてもためなのです」と。誠実かつものづくりへのしたたかな根性を持ち、利益面でもついでにいける会社だけがどんな時代でも生き残れるのだと断言する。

主な事業内容

エッチング加工、
電鍍加工、プリント配線板の製作等



棚澤 肇さん
代表取締役社長

株式会社棚澤八光社

Company
Profile

住所 / 〒579-8013
大阪府東大阪市西石切町2-1-10
創業 / 明治38年
設立 / 昭和28年4月
資本金 / 2億円
従業員 / 386名 (平成21年1月現在)
TEL / 0729-82-1701
FAX / 0729-82-8039

ISO 9001
ISO 14001



<http://www.tanazawa.co.jp/>